

抄読会（分野打ち合わせ）

少子高齢化社会における小児医療の現状と課題

博士課程 1 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築することを研究テーマに据えた。

今回は、National Database(NDB)のオープンデータの解析を行い、過去 9 年間の小児医療に関するデータの推移を示した。入院診療と外来診療の傾向の違いについて議論を行った。それらを踏まえて、本研究の研究計画についても概要を示した。小児科医数との関連性をどのように示すか、コロナウイルス感染のパンデミックを経てどのように小児医療が変化したのか、などについて議論を交わした。

今後、研究費の獲得と並行して、NDB データ利用申請を進める予定である。